

# 岩手県感染症週報

平成28年第33週(8月15日～8月21日)

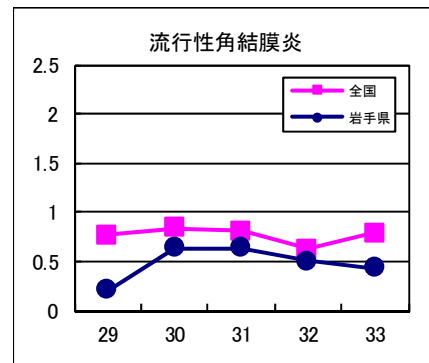
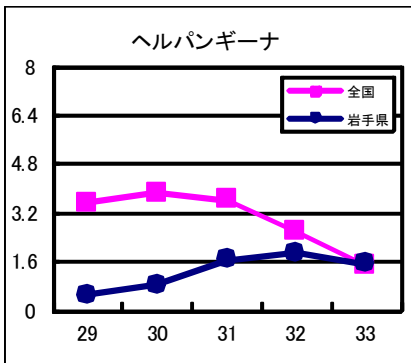
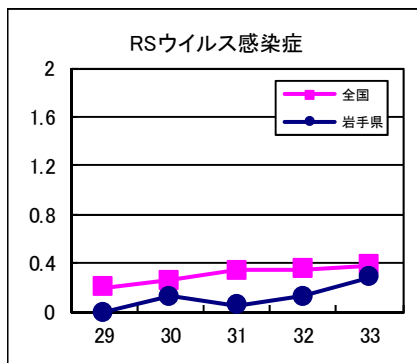
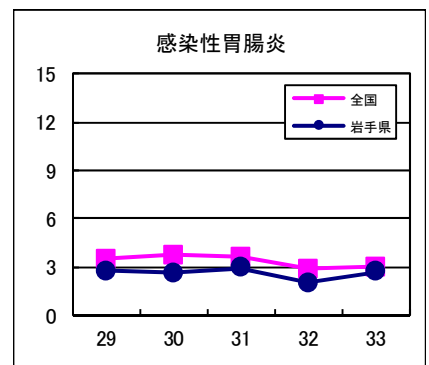
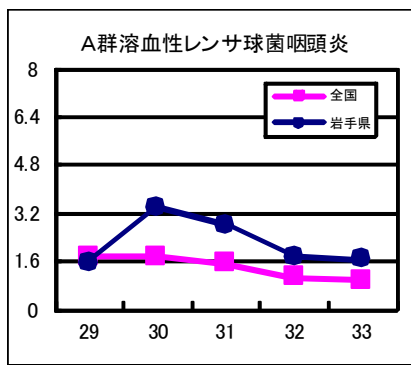
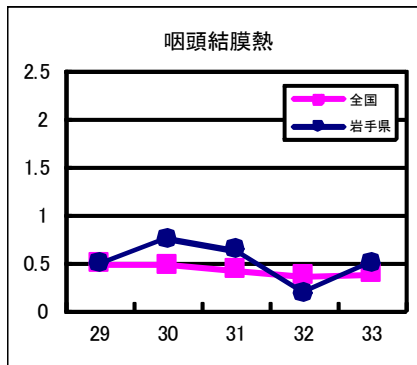
岩手県感染症情報センター

## 第33週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が4例ありました。このうち潜在性結核感染症の報告は2例です。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
  - ・咽頭結膜熱は、二戸地区において警報値 (定点あたり患者数3人) を超えました。発熱、咽頭炎、結膜炎を主症状とするウイルス感染症であり、感染経路は主に飛沫感染と接触感染です。プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれます。予防には、石けんと流水による手洗いや、タオルの共用を避けることが重要です。
  - ・ヘルパンギーナは、二戸及び久慈地区で多くなっています。飛沫感染の他に、便中にウイルスが排出されることによる感染も起こるため、予防には、石けんと流水による手洗いが重要です。
  - ・溶連菌咽頭炎は、二戸地区で警報値 (同8人) を超えました。今年は例年よりも多い状態が続いているので、注意が必要です。
  - ・RSウイルス感染症は、前週より増加しました。乳幼児は、細気管支炎や肺炎を引き起こす場合もあります。例年、秋から冬にかけて多く発生するので、今後注意が必要です。

## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		29	30	31	32	33		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0.02	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02		
RSウイルス感染症	岩手県	0	0.13	0.05	0.13	0.28	→	☆
	全国	0.2	0.26	0.34	0.35	0.38		
咽頭結膜熱	岩手県	0.48	0.75	0.63	0.18	0.5	↗	☆☆
	全国	0.48	0.47	0.42	0.36	0.38		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.55	3.4	2.8	1.75	1.65	→	☆☆
	全国	1.74	1.77	1.53	1.08	0.97		
感染性胃腸炎	岩手県	2.75	2.65	2.95	2	2.7	↗	☆
	全国	3.51	3.73	3.59	2.89	2.99		
水痘	岩手県	0.18	0.2	0.13	0.1	0.3	→	☆
	全国	0.32	0.31	0.28	0.26	0.26		
手足口病	岩手県	0.1	0.13	0.38	0.18	0.25	→	☆
	全国	0.71	0.71	0.75	0.57	0.5		
伝染性紅斑	岩手県	0.25	0.13	0.08	0.05	0.1	→	☆
	全国	0.28	0.28	0.24	0.16	0.14		
突発性発疹	岩手県	0.35	0.38	0.58	0.33	0.38	→	☆
	全国	0.47	0.53	0.49	0.42	0.46		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.5	0.83	1.65	1.9	1.53	→	☆
	全国	3.52	3.85	3.62	2.58	1.47		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.53	0.83	0.4	0.8	0.6	→	☆
	全国	1.22	1.31	1.17	1.05	1.09		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.21	0.64	0.64	0.5	0.43	→	☆
	全国	0.77	0.84	0.81	0.62	0.79		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.09	0.07	0.07	0.08	0.09		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.32	0.26	0.47	0.68	0.47	→	☆
	全国	0.79	1	0.93	0.93	0.88		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.05	0	0.05	0.05	0.05	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	0		
	全国	5	1	4	3	5		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					累計	全国	
		(週) 29	30	31	32	33		33	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (1)	3 (0)	5 (3)	4 (2)	4 (2)	168 (69)	345	15081
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	5	88
	腸管出血性大腸菌感染症	2	1	5	2	0	21	238	1880
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	31
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	10
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	2	6	272
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	1	0	1	0	204
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	13
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	4
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	7
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	38
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	つつが虫病	0	0	1	0	0	3	0	89
	デング熱	0	0	0	0	0	1	9	209
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	7	118
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	3	
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	32	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	5	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	2	0	0	0	0	7	21	874	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	3	12	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 29	30	31	32	33	累計	33	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	10	22	734
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	1	0	2	2	165
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	0	0	0	7	20	886
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	5	7	544
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	3	114
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	5	8	334
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	18	897
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	42
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	213
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	28
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	7	26	1795
	水痘 (入院例)	1	0	0	0	0	5	4	189
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	3	47	2674
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	2	80
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	73
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	32
	風しん	0	0	0	0	0	2	0	92
	麻しん	0	0	0	0	0	0	13	32
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	23

今注目の感染症

ヘルパンギーナ

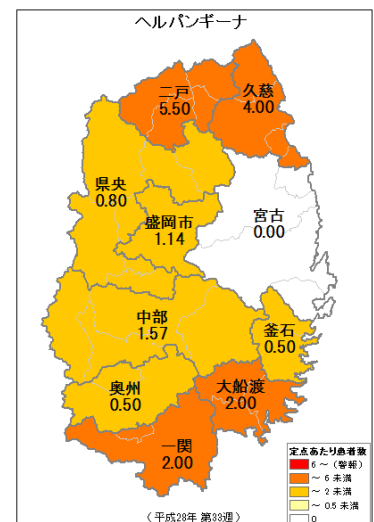
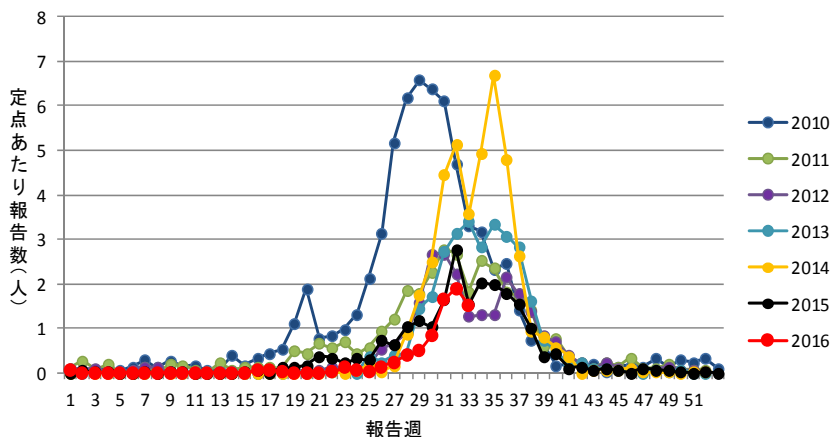
ヘルパンギーナは、発熱と口腔内水疱性発疹を特徴としたウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症です。いわゆる夏かぜの一種です。

今シーズンの岩手県における発生状況は、第25週から7週続けて増加しました。第33週は減少しましたが、例年9月上旬まで報告数が多い状況が続きますので、今後とも注意が必要です。

※参考 国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

ヘルパンギーナ 岩手県  
2010-2016年第33週



今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ（ダニの一種）の幼虫の刺咬により感染します（図1）。

岩手県内での発生状況ですが、全県内に発生し、春から夏と、秋から冬にかけての2つの発生のピークがみられます（図2）。ツツガムシの生息しているような場所（野山や田畑、河川敷等）に立ち入る場合には、肌の露出を少なくして、虫除け剤（ディート含有）を適宜使用しましょう。ダニが衣類の隙間から入り込むことがあるので、帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで、ダニを洗い流すことも大切です。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は、発熱、発疹、頭痛が主症状で、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられます（表1）。つつが虫病は、適切な治療を早期に受けることが重要です。野外活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診しましょう。野外で活動したことを医師に伝えることも大切です。

国立感染症研究所：ツツガムシ病とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

国立感染症研究所：リケッチアって知ってますか？

<http://www0.nih.go.jp/niid/Rickettsia/>

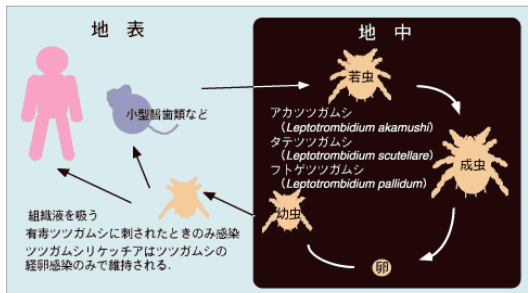


図1 ツツガムシの生活環  
— 国立感染症研究所HPより —

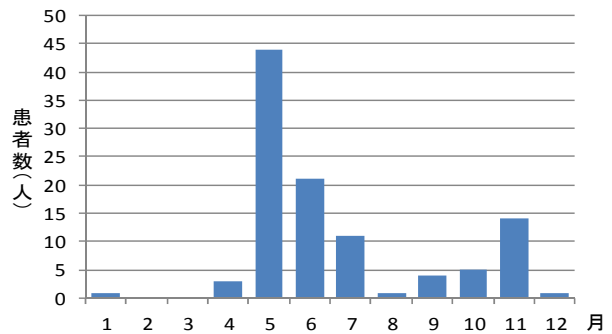


図2 岩手県における月別つつが虫病届出数 (1999-2016年累計)

表1 ダニの媒介により起こる代表的な感染症

疾患名	媒介するダニ	病原体	症状	潜伏期	発生状況 (2016年1～31週)	
					全国	岩手県
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	マダニ (フタゲチマダニ、タカサゴキアラマダニ、キチマダニ等)	SFTS virus (severe fever with thrombocytopenia syndrome virus)	発熱、消化器症状 (嘔吐、下痢等)、頭痛、白血球数減少、血小板数減少	6日～14日	38	0
つつが虫病	ツツガムシ (アカツツガムシ、タテツツガムシ、フトゲツツガムシ)	Orientia tsutsugamushi	発熱、発疹、頭痛、刺し口、全身倦怠感、食欲不振、悪寒、リンパ節腫脹	5日～15日	88	3
日本紅斑熱	マダニ (キチマダニ、フタゲチマダニ、ヤマトマダニ等)	Rickettsia japonica	頭痛、発熱、全身倦怠感、刺し口、発疹	2日～8日	104	0
ライム病	マダニ (シュルツエマダニ)	Borrelia garinii, Borrelia afzelii	遊走性紅斑、インフルエンザ様症状 (倦怠感、頭痛、発熱など)	数日～数週間	4	0



今注目の感染症 (つづき)

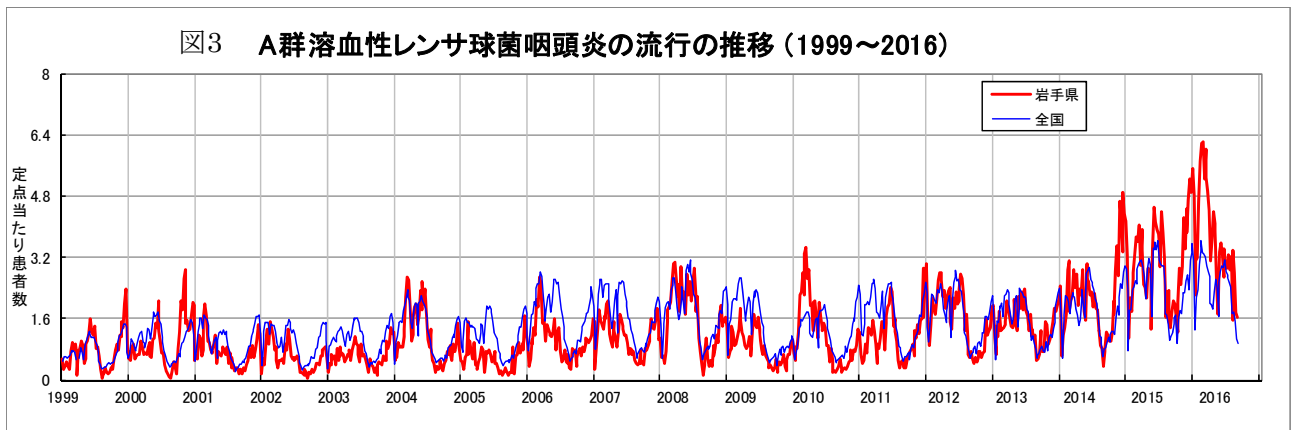
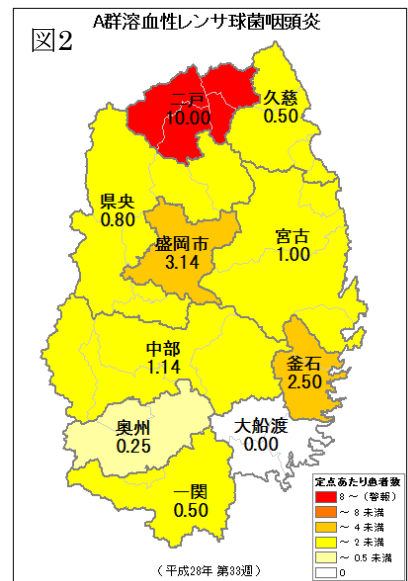
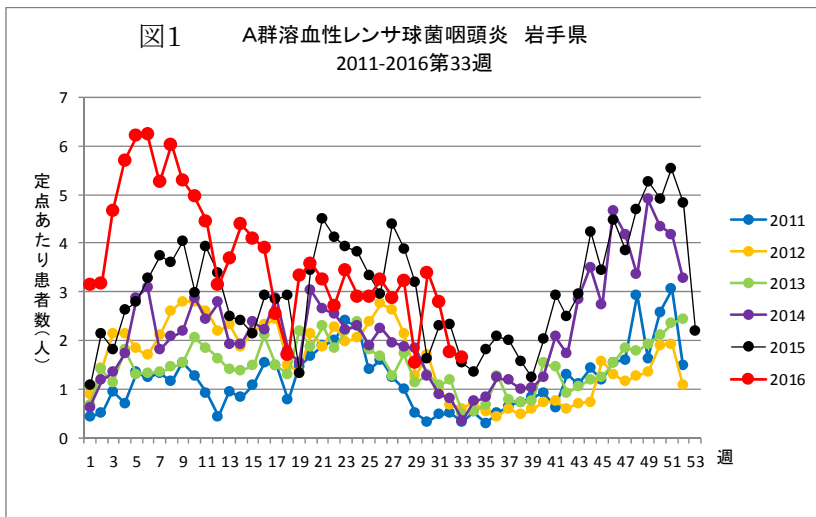
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後、急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好な疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接触を避けること、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットが重要です。

岩手県での発生状況は、2014年の第41週から、他の年に比較して多い状況が続いています(図3)。2016年の第6週には、県全体の定点あたり患者数6.23人と、調査を開始した平成11年以降で最多の報告数となりました(図1)。その後減少しましたが、例年より報告数が多くなっています。第33週は、二戸地区で警報値(定点あたり患者数8人)を超えました(図2)。今後とも注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>



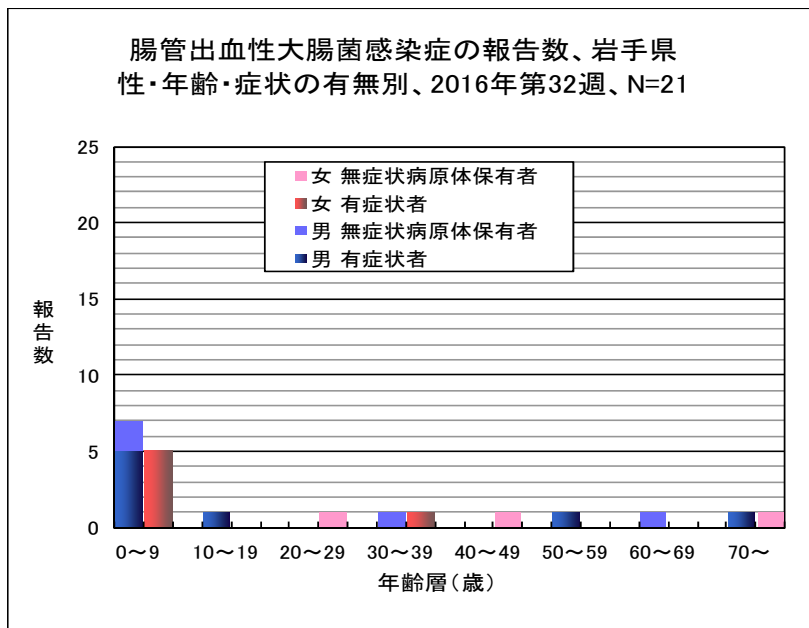
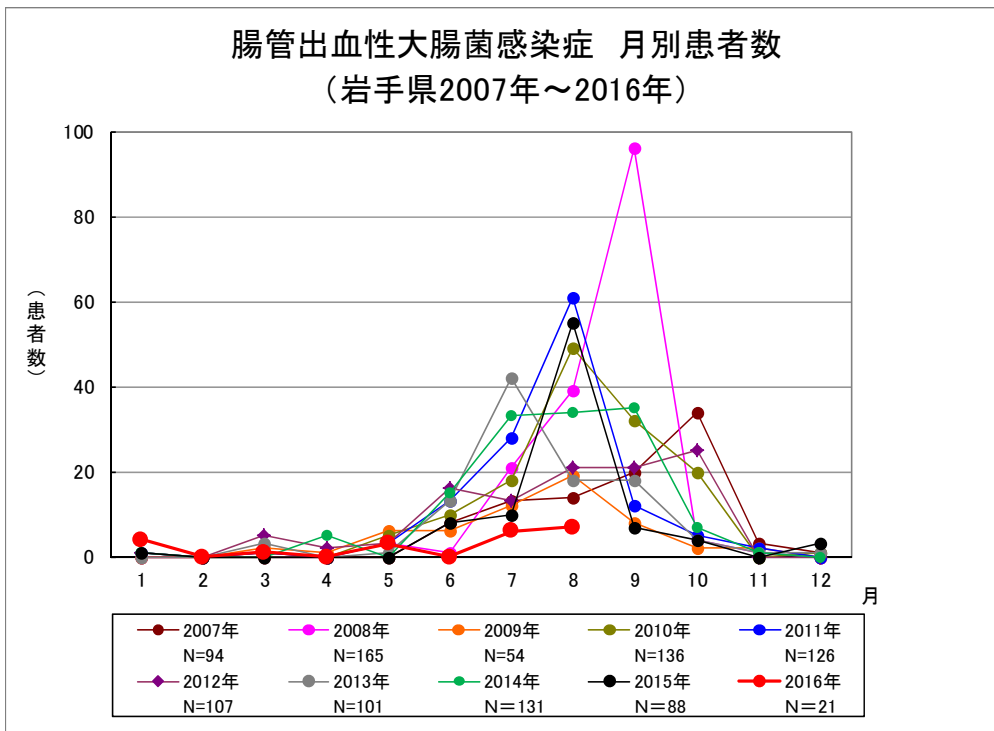
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Verotoxin=VT, またはShiga toxin =Stx と呼ばれている) を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、さらに著しい血便とともに重篤な合併症を起こし死に至るものまで様々です。

岩手県における平成28年の腸管出血性大腸菌感染症は、第32週に中部及び久慈地区からそれぞれ1例の報告があり、合計21例になりました。原因となった大腸菌は、O26が9例、O157が6例、O145が3例、O55が1例、O103が1例、O血清型不明が1例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く12例、次いで30～39歳及び70歳以上が2例でした。

予防対策としては、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、排便後や食事の前などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。



## 病原体検出情報

- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス3型を1件、ライノウイルスを1件、パラインフルエンザウイルス3型を2件、それぞれ検出しました。
- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス2型を1件、ライノウイルスを2件、パラインフルエンザウイルス3型を2件、それぞれ検出しました。
- ・不明発疹症の患者の咽頭ぬぐい液から、エコーウイルス9型を1件検出しました。

## 集団感染情報

- 腸管出血性大腸菌（O26ベロ毒素1型）感染症の集団発生について  
盛岡市内の保育園（園児101名、職員25名）
  - ・8月2日（火）に、市内医療機関から園児1名の発生届
  - ・8月3日（水）から19日（木）に実施した検便検査から、さらに12名（園児10名、園児の家族2名）の感染を確認
  - ・入院及び重症者はなく、有症者は回復または回復傾向

## 医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

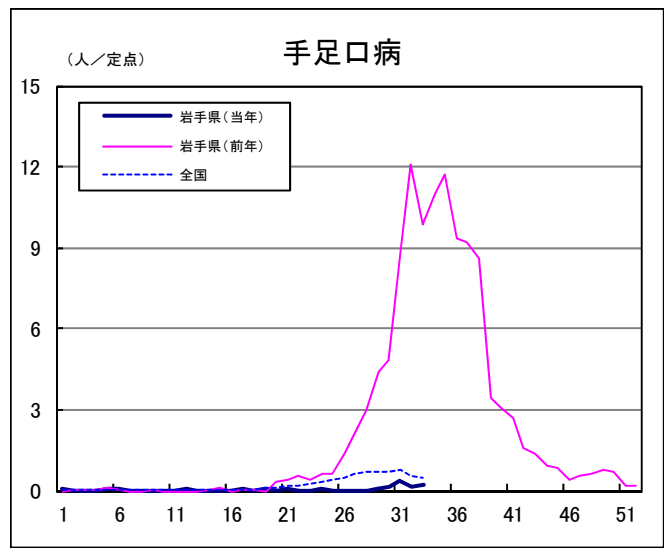
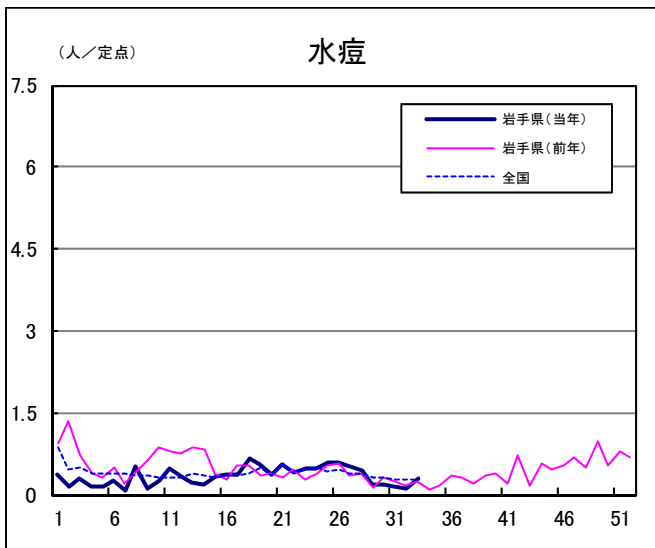
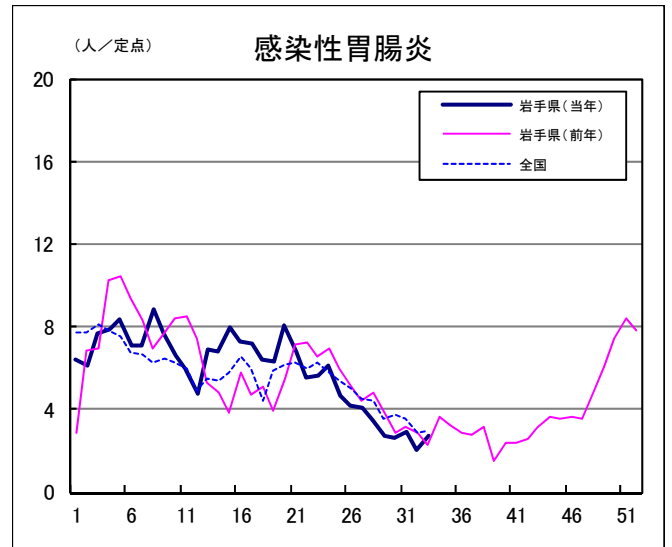
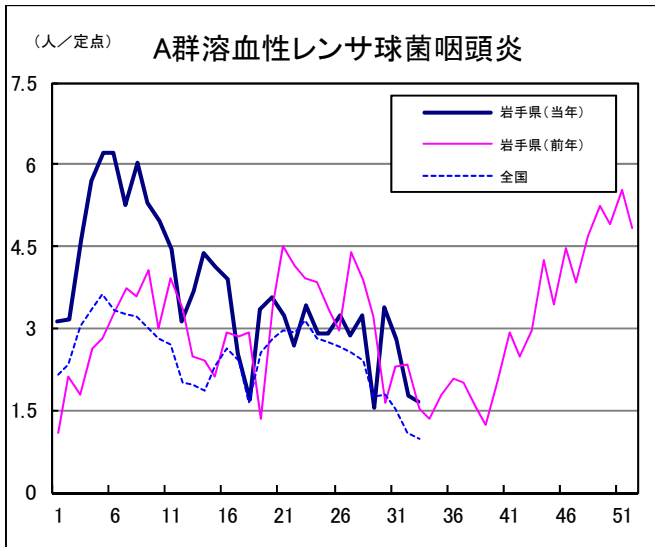
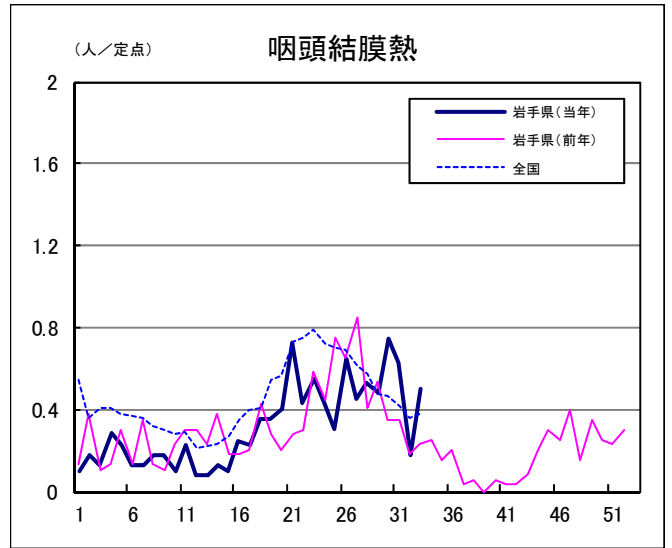
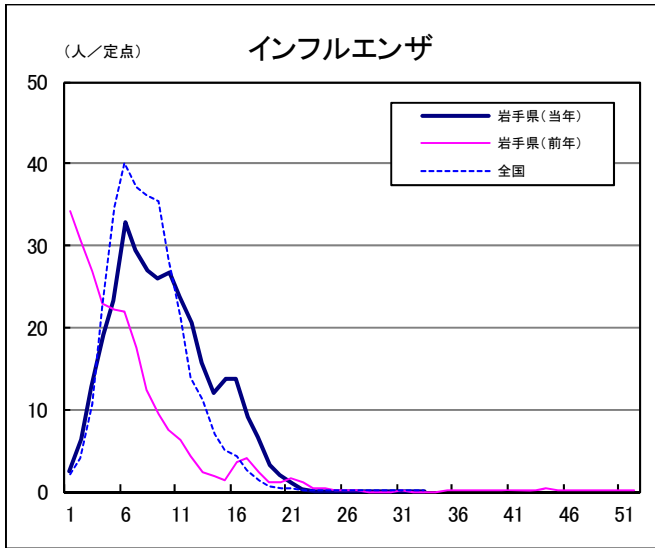
## Q & A

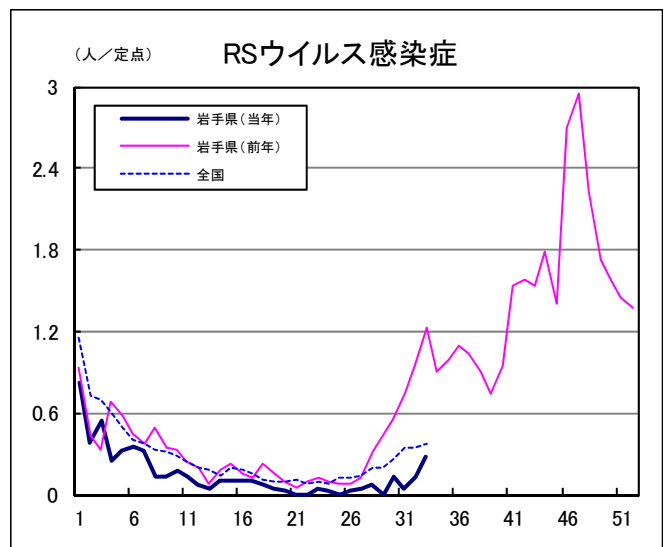
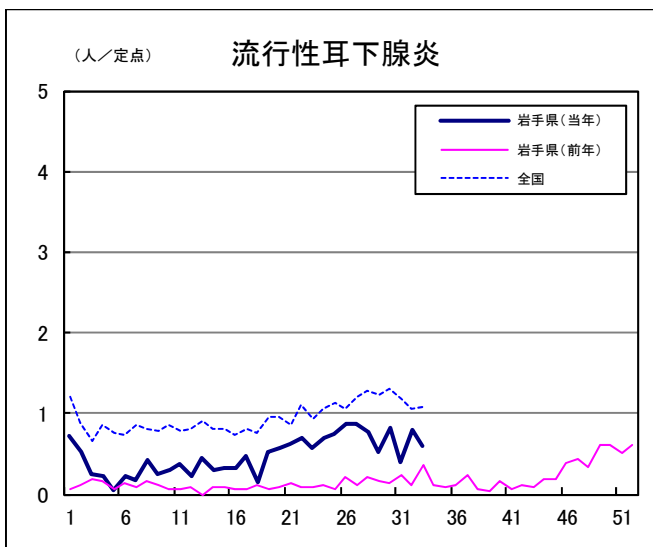
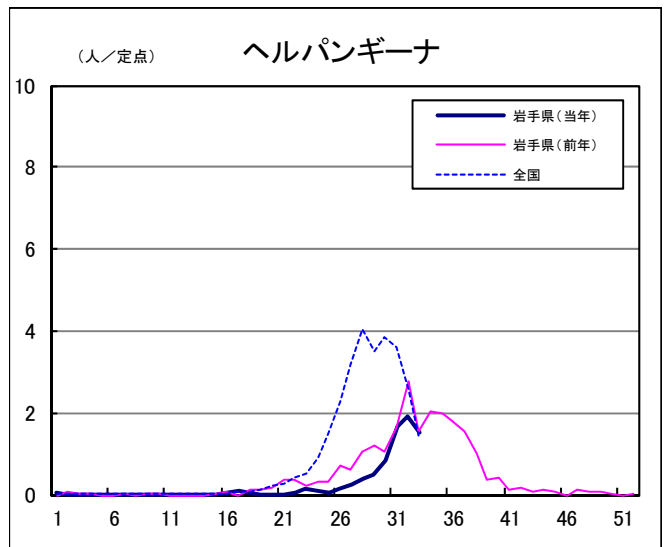
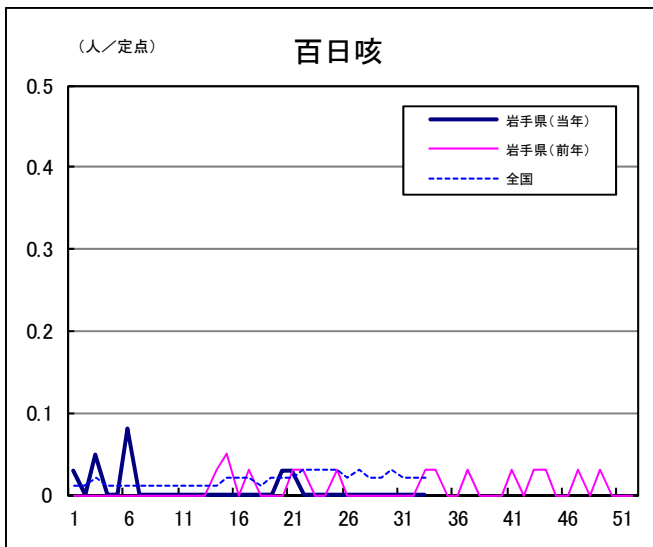
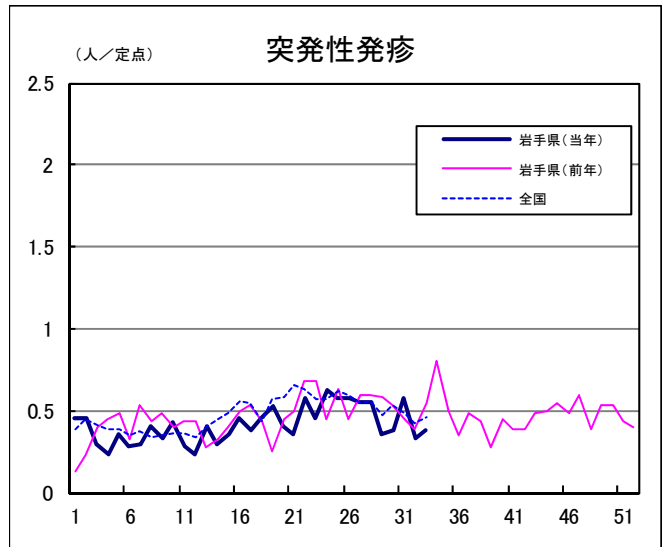
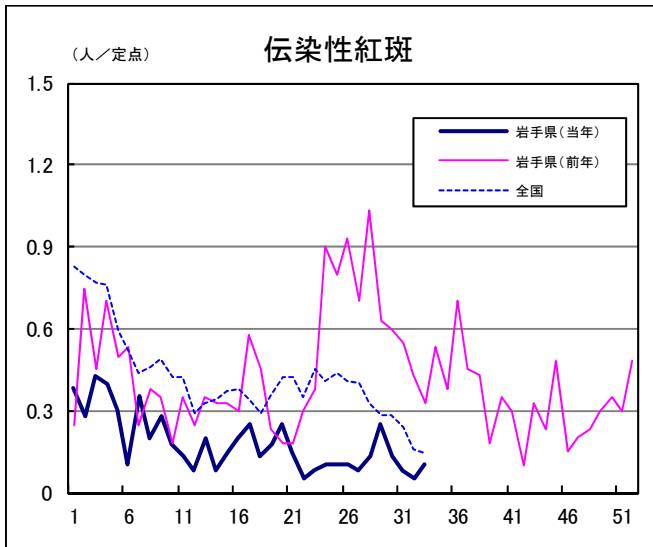
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

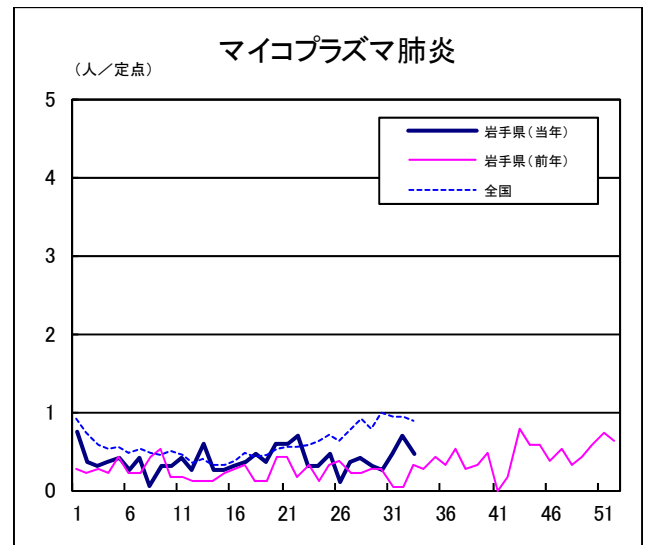
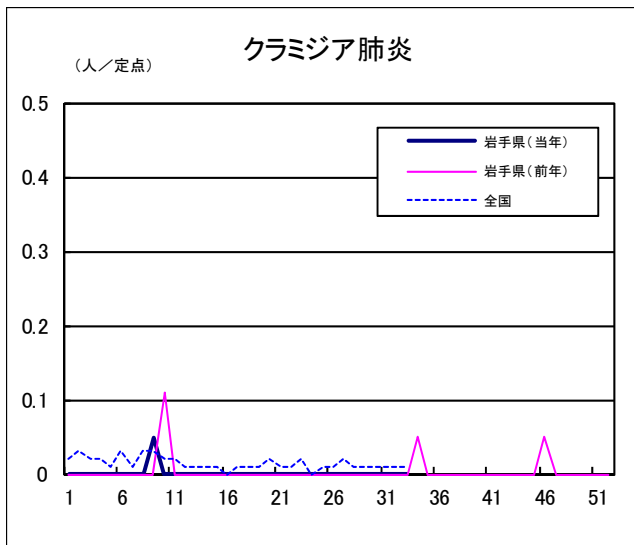
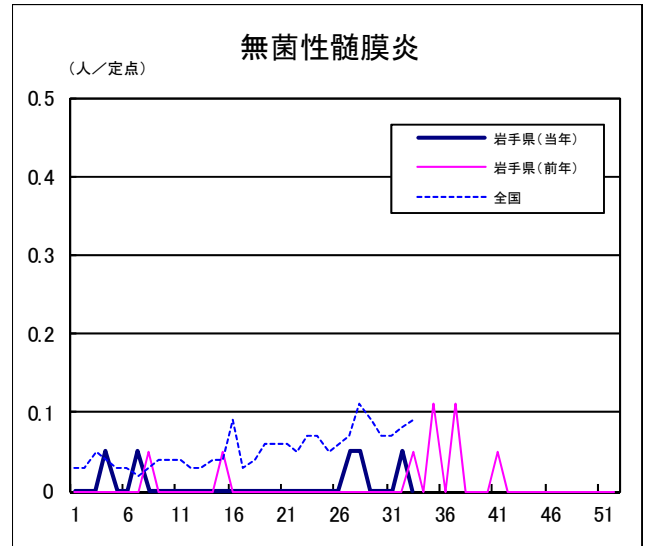
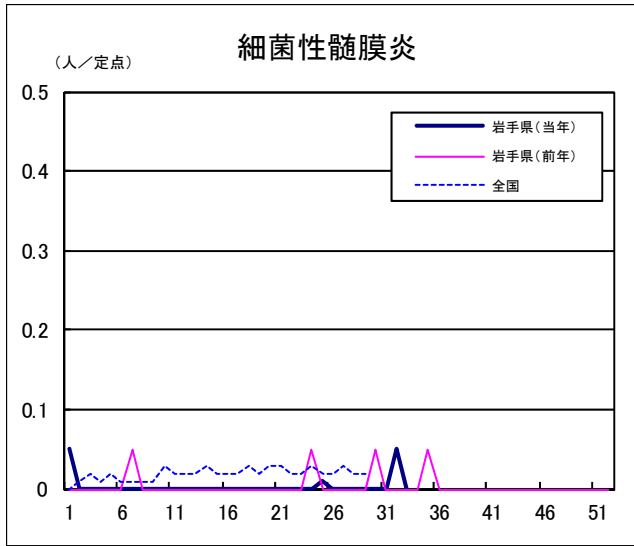
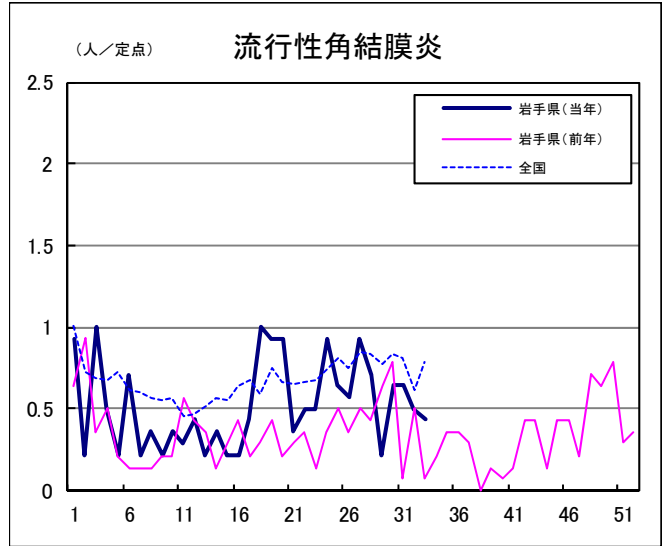
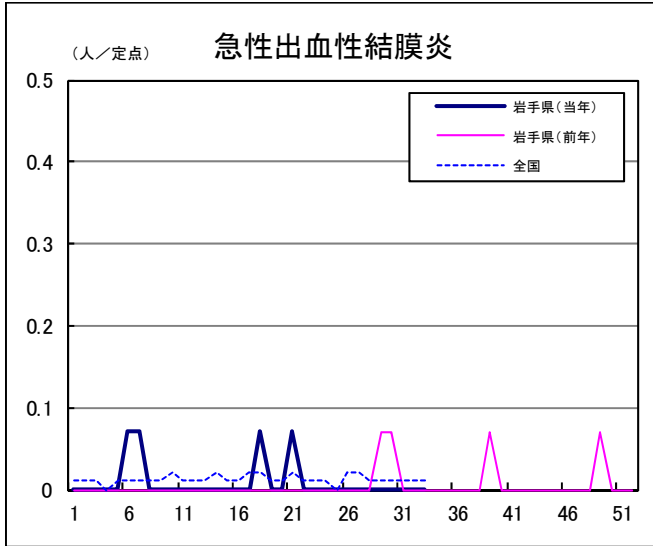
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp



疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成28年第33週 平成28年8月26日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>